



「平和」のために
赤平中央中学校2年
坂本 琉南 さ

私は、赤平派遣団として広島へ行き戦争と核兵器のおそろしさ、平和の大切さなど沢山のことを学びました。

広島は本当に暑くて北海道では考えられない暑さが一日中ずっと続いていました。

平和記念式典に行く前に見た原発の反対運動。私はそれを見た時、戦争の怖さを思い、何とも言えない気持ちでいっぱいになりました。戦争がなくなっても苦しんでいる人が沢山いるので、そんな方たちが苦しみますに生活できるようにしなければいけません。

広島平和記念資料館に行ったら私が見たのは原爆がおちた八時十五分で止まった腕時計、人の影の形が残った石、全身火傷をした男性、溶けた弁当箱、そして巨大な破壊力を持った原子爆弾の構造図や灰。たった一個で広島を廃墟の街にした原爆は本当に恐ろしいものです。沢山の人の命、人の心を壊していった核兵器や戦争は、決してあっては

ならないものだと私は思います。

高校生主催のメッセージFrom広島に参加して他の県の方たちと一緒に踊ったり、平和についてのメッセージを一人一つ書いて、各都道府県の代表者発表を聞いたり、楽しみながら平和の大切さについて学ぶことができました。そして高校生が言っていた、「もう戦争はいらない、核兵器もいらない。」

この言葉と平和という言葉。これをこれからの日本のために大切にしていきたいと思えます。そして平和というのが当たり前になり、核と人類が共存していかない世界になればいいと思います。

私は原爆ドームを目にした時、戦争の恐ろしさとみにくさを一気に見せつけられた感じがしてとても怖かったです。そして同時にどうして戦争などがあるんだらうと不思議に思いました。

私が思ったのはもともと沢山の人が核について、戦争について話を聞き反対する人が増えれば核の廃絶に近づくのではないかと、被爆者の高齢化が進んでいくので、私達の様な若い世代が今回学んだことを次の世代に伝えていこうと思えます。もう二度と、こんなみにくい戦争を起

こさせないために私達ができることは、一人一人が平和のために思いやりを持ってお互い傷つけあうのをなくすることです。小さな一歩かもしれないけれど、そうすることで私達の願う平和に近づけることができると思います。

中学生からのメッセージ

～伝えたい…私たちの経験した夏～

8月4日から6日まで原水爆禁止2013世界大会 広島大会が開催されました。赤平市からは2名の中学生が参加し、大会を通して感じたことを感想文にまとめてもらいました。



「平和」への願い
赤平中学校2年
赤 渋谷 一 稀 さ

僕は八月四日から六日の四日間、赤平派遣団として原水禁広島大会に参加してきました。

広島に着くとすぐに折り鶴平和行進に参加しました。日本全国から集まった大勢の人達と一

緒に核の廃絶と平和を訴えながら行進しました。続いて被爆六十八周年原水爆禁止世界大会に参加しました。ここでは実際に被爆した方のお話を聞くことができました。原爆投下直後の悲惨な様子、自分や家族の大ケガ、差別を受けながら生きてきたことなどを話してくださいました。

次の日は子ども慰霊祭に参加しました。ここでは各都道府県の代表の小・中・高生が平和を願って力強いスピーチをしていました。僕達のような子どもでも戦争について深く考え、平和を願う強い気持がこんなにもあるのかと僕は強く感じました。フィールドワークでは、たくさん慰霊碑を見て回りました。中でも原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑がとても印象に残りました。被爆した生徒を自らも被爆した先生が抱きかかえて悲しそうに空を見上げている像を見てとても切ない気持ちになりました。次に訪れた平和記念資料館では、原爆が投下され何もなくなってしまうた広島や、顔の皮ふが焼きただれ形が変わってしまった人の写真、黒こげの弁当箱やぼろぼろになった衣服の展示物等、

生々しい原爆の痕跡を実際に見て改めて原爆の恐ろしさや被爆者の人達の言葉にできない悲しみを感じました。六日は広島平和記念式典に参加しました。原爆が投下された時刻と同じ八時十五分に黙祷をしました。ものすごくいい天気です、息苦しいくらい暑い暑さの中で、六十八年前の今日、この時間に、今自分が立っている場所に原爆が投下され、前日に資料館で見た状況になったのかと思うとても恐ろしくなりました。

被爆した人達は、僕たちには想像もできないような光景を見て、恐怖を感じたことだと思えます。しかし、世の中は時間が経つにつれて原爆への恐怖が薄れてきているといえます。被爆者の方のお話で「思い出さたくない過去、だけれども、絶対に忘れてはいけない過去だ」という言葉がとても強く印象に残っています。

僕は今まで戦争や原爆についてあまり知らなかったし、深く考えたこともありませんでしたが、今回広島へ行かせていただき、多くの体験を通して戦争や原爆の恐ろしさについて沢山のことを学び、考えるようになりました。戦争は本当におろかなことです。僕は同じ悲劇を二度と繰り返さないために核のない世界になることを強く願います。